

PF 懇談会から PF-UA へ

前 PF 懇談会会長 朝倉清高（北海道大学）

PF 懇談会会長の任期を終えるに当たり、この2年間を振り返り、支えていただいた多くの方に感謝申し上げたく筆を執りました。

2年前に三木邦夫先生から、会長を引き継いで、最初に申し上げたことは、30年目を迎えるPF次期計画のERLプロジェクトをユーザとして軌道に載せたいと言うことでした。とりわけ、腰原伸也先生に幹事になっていただき、このプロジェクトの中心となる物理関連学会やコミュニティでのERL推進活動を行っていただきました。また、河田先生や足立先生が開催されたERLシンポジウムに協力しました。さて、先端性と汎用性の確保がERL計画の戦略です。そこで、一方の戦略である汎用性について議論し、現ユーザの憂いを除き、先端的光源としてのERL計画をユーザとして盛り上げていくことを目的に、“ERL 私の実験はどうなる”セッションを2011年7月開催のPFシンポジウムの中で行いました。現状のアクティビティを維持することに対していくつかの問題点を明らかにできました。この点については、今後PFスタッフ、UGとの議論を中心に解決して行く必要があります。これと同時に、現在のアクティビティを基盤に、さらに先端光源としてのERLに対するScientific discussionをスタートしていこうと思っています。この動きを受けて、PF-UA内ではありませんが、次期光源サイエンスを自由に討論する若手の会なども立ち上がりつつあるようです。

ERL計画推進のみならず、他の3つことを行いました。

1つは若手人材育成を目指した教育用ビームタイム、ビームライン、マイスター制度の検討です。慶應大学の近藤寛先生にWorking Groupを立ち上げていただき、この3つを中心に、ご議論・ご答申をいただきました。その結果をPFに提案書としていたしました。PFの野村先生とも議論を続け、なるべく早い時期に教育用ビームタイムの運用を開始できるよう進めています。学生をPFに滞在させ、ビームライン整備、ユーザ支援をする中で、ビームラインサイエンティストとして育てるマイスター制度についても検討しましたが、資金の問題があり、今後、継続して検討することになりました。

2つめは、2011年3月11日の東日本大震災の対応でした。2011年3月14日からPFシンポジウムが計画されていただけに、3月12、13日にPFシンポジウム中止をユーザグループ、放射光学会などあらゆるチャンネルを使って、ユーザの皆さんに連絡いたしました。また、PFの震災復旧のための署名活動を行い、皆様そしてユーザグループのご協力を頂き、僅か5日間で海外もふくめ、429名もの署名をいただきました。これをもとに、鈴木厚人機構長、文科

省量子放射線研究室藤吉尚之室長、高木義明文部科学大臣に、PF早期復旧に対する要望書を提出し、ご協力をお願いすることができました。いまPFとKEKは、震災からかなり復旧しました。本当にPFスタッフ、KEKスタッフのご努力には感謝の言葉もありません。

3つめは、最後であります。重要なPF-UAへの改組であります。事の発端は、PF懇談会について、ISACに説明したときにあります。20%の組織率は低すぎるとHodgson先生、Lindau先生に指摘されました。PF懇談会が、ユーザコミュニティを代表として次期計画をすすめるのであれば、100%に早急にするべきである。会費が問題なら、会費を無料にせよというご助言をいただきました。中尾裕則先生、篠原佑也先生にPFシンポジウムでポスター賞を作っていただくなど、有料のままで会員数の増加を図る可能性を探りました。様々な紆余曲折のすえ、2012年4月より無料化し、全員参加というPF-UAへ改組することになりました。無料化に伴う帰属意識の低下問題については、会長や運営委員の会員による直接選挙や運営委員の担当小委員会への配属などをおこなうことで、少しでもユーザの意識を高めようと思っています。今年1月には会長、運営委員会委員の選挙をweb上で行いました。沼子千弥先生に、選挙管理委員長になっていただき、PF懇談会では初めてのweb投票を実現しました。財源問題については、会計幹事の青戸智浩先生に必要な経費を算出して頂き、30万あれば、何とかかなるという試算をいただきました。そこで、PFニュースの電子化やPFシンポジウムの参加費有料化するなどして、Low cost化をはかり、賛助会員の拡大により解決しようと思いました。電子化においては、編集委員会特に吉岡 聡先生、小澤健一先生にはお世話になりました。また、賛助会員については、行事幹事の渡邊信久先生、兵藤一行先生にいろいろ御議論いただき、広告、展示などの特典をつけることで、目標とした30万円をほぼ達成しました。PF-UAは、全員参加ですから紛れもなく、PFのユーザの真の代表であります。この改革により、PF-UAがPF懇談会の伝統を引き継ぎ、PFの次期計画に対する強力なサポーターとして機能してくれることを心から望んでいます。新会長の佐藤衛先生には、ご苦勞をおかけするとは存じますが、よろしくお願いします。

最後になりましたが、いろんなことを支えて下さった幹事、運営委員の皆様とくに、庶務幹事の雨宮健太先生には心から感謝します。またPF秘書室の方々、特に森史子さんには、大変お世話になりました。ありがとうございました。そして無理難題を正面から取り上げ、ご助言とご協力をいただいた若槻壮市施設長、野村昌治先生を始めとするPFスタッフの方々、大所からご助言いただいた物質構造研究所所長の下村理先生には心から感謝しております。本当にありがとうございました。

2011年度PF懇談会 第3回幹事会議事録

日時：2012年3月15日（木）12時00分～12時30分
場所：つくば国際会議場サロンレオ
出席者：朝倉清高，雨宮健太，腰原伸也，篠原佑也，近藤寛，中尾裕則，兵藤一行，青戸智浩，小澤健一（順不同，敬称略）
議事：運営委員会，総会に向けての事前打ち合わせ

1. 活動報告
2. 会計報告
3. PFシンポジウムにおける企業展示
4. PF-UAへの改組について
5. 会長および次期運営委員の選挙について
6. 奨励賞選考結果報告

2011年度PF懇談会 第2回運営委員会議事録

日時：2012年3月16日（金）12時00分～12時40分
場所：つくば国際会議場中会議室201B
出席者：朝倉清高，雨宮健太，尾嶋正治，船守展正，野田幸男，野村昌治，伊藤健二，百生敦，佐々木聡，腰原伸也，篠原佑也，足立伸一，三木邦夫，若槻壮市，千田俊哉，栗栖源嗣，本田融，浦川啓，近藤寛，中尾裕則，兵藤一行（順不同，敬称略）
議事：1. 活動報告
2. 会計報告
3. PFシンポジウムにおける企業展示
4. PF-UAへの改組について
5. 会長および次期運営委員の選挙について
6. 奨励賞選考結果報告

1. 活動報告

利用幹事：教育用BL，BTについて（近藤寛利用幹事）
PFシンポジウム奨励賞
行事幹事：今年度は2回開催した。
今回はじめて企業展示を行う。
広報幹事：PF-UAのポスターを作成した。
編集幹事：今年4回PFニュースを発行した。
来年度からはweb版になるので印刷費，送料がなくなる。著者への原稿料もない。
Web版を5月発行目標に進めている。

2. 会計報告

中間報告となる。
単年度収支では黒字。200万円程度の繰越金が生じる予定。

3. 企業展示について

今回は広告に1社，展示に4社が参加。
賛助会員になったのはこの他数社ある。

4. PF-UAへの改組について

- ◆ PF懇談会からPF-UAへの改組の経緯
 - ◆ PF懇談会改革特別委員会を設置
 - ◆ 会員は1. PFユーザー全員，2. PFサポーター，3. 賛助（団体，企業）で組織する。
 - ◆ 会長：任期3年，正会員の選挙により選出。
幹事：任期3年，会長が所外会員から指名。
運営委員：任期3年，PF外委員は選挙により25名を選出，PF内委員5名は施設長が任命。
 - ◆ 財源と支出：年間30万程度の維持費を賛助会員からの会費で賄う。正会員から1口2000円の寄付を募る。
PFシンポジウムの参加費補助を廃止し，PFニュースの配布をやめる。
- ### 5. 会長，運営委員選挙
- 変則的ではあるがPF-UAの会則に乗っ取った形で，PF懇談会の会員によって投票が行われた。
Webと郵送で有効投票数は213票であった。会長を信任投票，PF外運営委員は25名選出した。
- ### 6. 学生奨励賞
- 選考の結果3名を決定した。総会で表彰を行う。

2011年度PF懇談会総会

日時：2012年3月16日（金）15時00分～15時40分
場所：つくば国際会議場中ホール300
議事：1. 活動報告
2. 会計報告
3. PFシンポジウムにおける企業展示
4. PF-UAへの改組について
5. 会長および次期運営委員の選挙について
6. 奨励賞選考結果報告

0. 議長選出

田淵雅夫氏（名古屋大学）を選出。

1. 活動報告

利用幹事（腰原伸也，近藤寛，篠原佑也，中尾裕則）
教育用BT・BL
PFシンポジウム奨励賞
◆ 行事幹事（兵藤一行）
第28回，29回と年2回のPFシンポジウムを開催した。企業展示，広告を行った。
◆ 広報幹事（沼子千弥）
PF-UAの告知ポスターを作成
◆ 編集幹事（小澤健一）
PFニュースを年4回発行。新年度からは冊子体を廃止して，webで電子版にする。

2. 会計報告（青戸智浩）

平成23年度収支中間報告

3. PFシンポジウムにおける企業展示

PF-UAの財政基盤を確立するため賛助会員を募る。
賛助会員のメリットとして割安な展示，広告の機会を提供する。

今回は広告1社、展示4社を実施した。

4. PF-UA への改組

臨時総会でPF懇談会からPF-UAへの改組を承認された。4月から移行する。PFと覚書きを交わす。

Q) ユーザー全員が会員の総会は成立するのか、定足数は？

A) 委任状を出してもらおう。定足数は1/50。

5. 会長および次期運営委員の選挙

信任投票で会長を、web投票で25名の運営委員を選出した。

佐藤衛新会長の挨拶。

6. 学生奨励賞表彰式

○東京大学大学院理学系研究科 出田真一郎

○東京大学大学院新領域創成科学研究科

OLBINADO Margie

○慶応大学理工学部 蓬田匠

朝倉会長退任挨拶

い、一緒に指導していく。チームタイムとお金、スタッフの指導を込みにした構造にしたら良いかと思う。

Q) 大学側の教育課題に対しての課題設定という考え方はないか？

A) 今後検討したい。

Q) 対象を修士の学生も含めることにしてはどうか？

Q) 特別共同利用研究員との違いは？

A) ウェイトはホームグラウンドである大学にあり、特別共同利用研究員と一般ユーザーとの中間の位置と考える。旅費はサポートできるようにはしたい。特別共同利用研究員や総研大生が申請することは可能。

Q) そうなるとインセンティブがはっきりしない。

A) 大学院生が自分で申請することが重要である。その他については現場の教員、院生からの意見を聞かせてほしい。

<まとめ>

今後実現に向けて整備していくには、課題申請、審査システムの改修等が必要となるが、何年も議論していくのは良くないので、来年度のどこかでスタートできればと考えている。UAとの議論を続けていきたい。

「PFの運営についての意見交換」議事メモ

日時：2012年3月16日（金）15:40～16:50

場所：つくば国際会議場 中ホール 300

1. 教育用BT・BLについて

近藤寛利用幹事からの説明

- ・学位取得用課題申請（院生奨励課題）
- ・マイスター育成プログラム
- ・コミュニティー運営EBT：ビギナーを組織的に教育する
- ・大学コンソーシアム

院生奨励課題についての説明（野村）

- ・若い大学院生の優れた研究をプロモートしようとする目的で、学生自身が責任者として申請書を書くことが大事。
- ・1年間有効な課題とし年2回募集し、締め切りはPACより遅くする。
- ・チームタイムを高い確率で配分する。
- ・1回の課題申請で5件程度、1ステーションで3件程度を考えている。
- ・希望があればPF、大学双方の教員が指導に当たる。

<協議>

Q) 目的は優秀な学生に入ってきてほしいのか、普通の学生を教育していい学生に育てたいのかどちらなのか？

A) 出口でクオリティーの高い学生を育てたい。

Q) 課題申請はどうする。一般課題と比べて特別な課題選定をする予定があるのか？

A) まだ検討しきれていないが、サイエンスとして一般課題と十分に競争できるもの。

C) 博士の学位審査委員にPFのスタッフに入ってもら

2. 優先利用制度の説明（野村）

- ・目的と背景：国の大型プロジェクトに対応するシステムがPFにできていないため、ユーザーはグラントとPFの両方に申請書を出す手間をかけている。PF側からは、プロジェクトに対して重要な役割をしているのが国から見えていないことを改善したい。また、課題申請のタイミングが合わないことを改善したい。基盤的経費が削減され、競争的資金が増大している傾向が続いていてPFの予算も減少傾向にある。運転時間を確保し、実験装置を整備し、良い成果を出すためにこのような制度を考えた。

・課題申請は大学共同利用実験に準じる。PFの利用が欠かせない研究で、国プロ等ですでに学術的評価を得ていて、PFで重ねて審査をする必要のないもの。成果は公開、有償。

・チームタイムは例えば20%程度を上限とする。確実にBTを配分する。課題によっては留保BTを活用してタイムリーに実験できるような便宜を図りたい。

Q) PFとして科研費や競争的研究資金を獲得する努力はしないのか。

A) 個別ではもちろん行おうが、運営費交付金を補うような使い方ができない。

Q) PFの安全審査等をクリアしさえすれば、課題は自動的に採択されるのか。

A) 時間の割合等はある。ここは大学共同利用研究機関なので、一般ユーザーのBTを圧迫しないよう配分割合を考慮する。

Q) 申請課題の優先順位はどのようにつけるのか。

- A) SPring-8 をお手本にしながら検討したい。
- C) 金額はある程度そろえた方が良いと思うが、PF の場合は旅費支援するかどうかをきちんと考えておく必要がある。チームラインの 20% はきつすぎるかもしれない。申請者の負担を減らすためにこのような制度を実施するのではなく、大いにそこのサイエンスを興隆するためであるとして欲しい。
- Q) 電気料金の値上げ等で運転資金が厳しくなってきたための制度か。
- A) 主目的ではない。
- C) ユーザーが利用料を支払ってもよい。
- C) 国プロ等への PF の貢献を明確にしていくことが重要と考える。

<まとめ>

最終的には PAC, 運営会議で議論する。PF-UA でも検討して欲しい。

ユーザーグループ一覧

平成 24 年 4 月 1 日現在

1	XAFS	田淵雅夫	名古屋大学
2	タンパク質結晶構造解析	三木邦夫	京都大学
3	小角散乱 (仮称)	平井光博	群馬大学
4	放射線生物	前沢 博	徳島大学
5	粉末回折	井田 隆	名古屋工業大学
6	高圧	高橋博樹	日本大学
7	構造物性	野田幸男	東北大学
8	表面化学	吉信 淳	東京大学
9	固体分光	藤森 淳	東京大学
10	原子分子科学	副島浩一	新潟大学
11	量子ナノ分光	尾嶋正治	東京大学
12	核共鳴散乱	小林寿夫	兵庫県立大学
13	位相計測	百生 敦	東北大学
14	低速陽電子	長嶋泰之	東京理科大学
15	医学利用	松村 明	筑波大学
16	X線発光	手塚泰久	弘前大学
17	表面界面構造	高橋敏男	東京大学
18	マイクロビームX線分析 応用	高橋嘉夫	広島大学
19	表面 ARPES	枝元一之	立教大学
20	物質物理	佐々木聡	東京工業大学
21	X線トポグラフィー	山口博隆	産業技術総合 研究所
22	動的構造	腰原伸也	東京工業大学

PF-UA 運営委員名簿

任期：2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

朝倉清高	北海道大学触媒化学研究センター
雨宮慶幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科
井田 隆	名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター
今井基晴	(独) 物質・材料研究機構
奥田浩司	京都大学 大学院工学研究科
奥部真樹	東京工業大学 応用セラミックス研究所
尾嶋正治	東京大学大学院工学系研究科
木村正雄	新日本製鐵 (株)
栗栖源嗣	大阪大学蛋白質研究所
近藤 寛	慶應義塾大学理工学部
桜井健次	(独) 物質・材料研究機構
佐々木聡	東京工業大学応用セラミックス研究所
鈴木昭夫	東北大学 大学院理学研究科
千田俊哉	産業技術総合研究所臨海副都心センター
高橋敏男	東京大学物性研究所
高橋嘉夫	広島大学 大学院理学研究科
田淵雅夫	名古屋大学大学院工学研究科
中川敦史	大阪大学蛋白質研究所
沼子千弥	千葉大学理学部
林 好一	東北大学金属材料研究所
藤森 淳	東京大学大学院理学系研究科
保倉明子	東京電機大学 工学部
三木邦夫	京都大学大学院理学研究科
百生 敦	東北大学多元物質科学研究所
横谷明德	(独) 日本原子力研究開発機構
足立伸一	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
伊藤健二	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
河田 洋	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
村上洋一	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
若槻壮市	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設